

オープンアクセスリポジトリ推進協会
第5回 JAIRO Cloud 共同運営本部（2025年度）議事要旨

日 時：2026年1月14日（水）15:30-17:00

場 所：オンライン会議（Webex）

議 事 :

1. 機関リポジトリシステムへの要望（2025年6月～2025年10月分）について
2. JAIRO Cloud 運用の課題点について意見交換
3. サービスレベル（SLO）の検討について
4. JAIRO Cloud の現況報告
5. JAIRO Cloud 作業部会の活動報告
6. 2025年度活動報告・2026年度活動計画について
7. その他

資 料：資料1 第5回 JAIRO Cloud 共同運営本部出席者名簿

資料2 第4回 JAIRO Cloud 共同運営本部議事要旨

資料3 要望リスト（2025年6月～2025年10月分）

資料4 SLO 策定の進め方について

資料5 JAIRO Cloud の現況報告

資料6 JAIRO Cloud 作業部会活動報告

資料7-1 2025年度活動報告

資料7-2 2026年度活動計画

資料7-3 JAIRO Cloud 今後の方向性について（総会用資料）

参考 JAIRO Cloud 共同運営本部規程

出席者

氏 名	所属機関・役職	備考
斎藤 未夏	筑波大学学術情報部長	
石津 朋之	筑波大学学術情報部情報企画課リポジトリ係長	
前田 朗	東京大学工学系・情報理工学系等情報図書課長	
高橋 菜奈子	新潟大学学術情報部長	本部長
次良丸 章	東海国立大学機構名古屋大学附属図書館事務部長	
杉田 茂樹	京都大学附属図書館事務部長	
大園 岳雄	鳥取大学研究推進部図書館情報課長	

梅田 順一	明治大学学術・社会連携部図書館総務事務室事務長補佐	
鈴木 恵津子	星薬科大学図書館	
林 正治	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター 特任准教授	
細川 聖二	国立情報学研究所学術基盤推進部次長	
首東 誠	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長	
林 豊	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課副課長	

欠席

谷藤 幹子	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター長	
-------	----------------------------	--

陪席

坂本 拓	国立情報学研究所 学術基盤推進部 図書館連携・協力室 係長	
------	-------------------------------	--

作業部会員等（陪席・順不同）

南雲 修司（東京学芸大）、藤原 幸生（新潟大）、石井 百葉（横国大）、青木 綾乃（信州大）、野田 晶子（金沢大）、赤澤 久弥（大阪大）、林 賢紀（国際農研）、田辺 浩介（NIMS）、三村 千明（NII）

国立情報学研究所

古橋 英枝	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課 係長
増山 廣美	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課主任学術基盤技術専門員
杉山 美紀	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課学術支援技術専門員

事務局

尾崎 仁美	オープンアクセスリポジトリ推進協会
相原 雪乃	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課特任専門員

議事要旨

1. 機関リポジトリシステムへの要望（2025年6月～2025年10月分）について（審議）

高橋本部長から第4回本部会議で審議された要望リストを10月にNIIへ提出したことの報告があった。それ以降のリストについて、資料3に基づき石津本部員から説明があり、審議の結果NIIに要望することとなった。

次の質疑応答が行われた。

- 提出したリストについて、NII からのレスポンスが欲しい。
- NII にもその認識はあり、全体に対する方針を利用機関に伝えたい。また、JPCOAR に対して利用機関からリストへの反応があった場合、NII にも知らせてほしい。

2. JAIRO Cloud 運用の課題点について意見交換

梅田本部員から私立大学の事例として明治大学の状況について、及び鈴木本部員から小規模大学の状況について説明があり、次の質疑応答、意見交換が行われた。

- ・ 明治大学は複数キャンパスがあるが、リポジトリ業務は 1 か所でまとめて行われているのか。
- リポジトリ業務は業務委託となっており、中央図書館に専任職員が 1 名サポート（監督）している。
- ・ 「サービスを受ける側といった意識が強い」という発言が印象に残ったが、サービスというのは JAIRO Cloud のことか。
- 直接的には JAIRO Cloud のことだが、JPCOAR 自体への参加もどちらかというと受け身である。契約してサービスを受けているという意識がある。
- ・ 明治大学に限らず、使用料という形でお金を払っているので多くの参加機関はサービスを受ける側であるという意識を持っているのではないかという印象がある。ここを変えていく必要があるのか、また、このままサービスを受ける側という意識でもいいのではないかといった点に関して率直にはどうか。
- 事実上、人員的にも受け身とならざるを得ない状況に追い込まれている。
- ・ 会員にはコミュニティとして参加してほしいという期待はあるものの、多くの利用機関の現状を考えると、それを求めるのは難しい。委託に頼る機関への働きかけが必要だという議論がある一方で、学術情報流通の拡大など、コミュニティ任せにしそうに進めるべき課題も存在している。そのため、コミュニティへの期待と現実のバランスをどう取るかが大きな課題である。
- ・ 委託業者は、直接 JPCOAR や NII にコンタクト可能か。
 - 機関経由で連絡してもらっている。
- ・ 委託業者も JPCOAR の会員になってもらって技術情報を知らせるというやり方もあるのではないか。
 - 本件、運営委員の中でも話題となっている。今後検討する。

3. サービスレベル (SLO) の検討について

資料 4 に基づき高橋本部長から、次に示す理由により、SLO の検討を行いたいとの

提案があり、審議の結果、担当を設定して検討に取り組んでいくこととなった。

- ・ 前回の議論において、JAIRO Cloud は商用サービスとは違い、国の限られた予算でベストエフォート型として提供されているという前提を利用機関と共に持つ必要があることや、NII 側にも人員や運用の厳しさがあり、JPCOAR が要望だけを出すのではなく、「何をする／しない」を整理することが安定運用につながるという指摘があった。
- ・ SLO（サービスレベル目標）として現状のサービス内容や目標を文書化し、利用機関と共に持つこととした。
- ・ SLO はシステムだけでなくサポートなどサービス全体を対象とし、標準とオプションの区分も明確化する。不足する機能や、理想とのギャップが見えれば、今後の開発や運用改善、リソース確保の議論にもつなげられる。

また、次の質疑応答が行われた。

- ・ SLO を定めることは賛成だが、サービスレベルの話はコストに反映されてくるので、JAIRO Cloud 内部の SLO 的なところも反映していただきたい。
 - コストをかけないと実現しないようなものではなく、現状で実現できるサービスレベルを目標にするのが第一段階と考えている。
- ・ 素案は共同運営本部で作るとしても、会員に意見を募る必要はあるので、どの時点で何回意見を募るのか、どこまで意見を取り入れるのかということを最初の時点で決めておいたほうがよいのではないか。
 - 目標とする要望を会員機関に出してもらうのではなく、現状ではこれくらいのサービスレベルということが、JC 作業部会や NII の間でしか見えていないので、整理して会員に示したいというのが目的である。

4. JAIRO Cloud の現況報告

資料 5 に基づき首東本部員から、アップデート状況、問い合わせ対応状況に関する説明があり、次のコメントがあった。

- ・ アップデートに関して、データを更新できない期間や利用機関側で備えておくべきことのアナウンスが出ると思うが、どのような通知をすればよいかを JC 作業部会と NII とで相談したい。
- ・ OA アシスト機能のシナリオテストに際しシステム開発・連携作業部会員に、ユーザーテストに際し JAIRO Cloud 作業部会員に、協力いただいた事に感謝を述べたい。

5. JAIRO Cloud 作業部会の活動報告

資料 6 に基づき、石津本部員から、作業部会会合、ML、Slack での作業部会員の発信、要望事項のとりまとめ、地域ワークショップ@金沢・福島・沖縄への講師派遣、

JC 基本マニュアルの JPCOAR ウェブサイトへの移行、ML から Slack への移行検討、AI チャットボット検討等、作業部会活動の中間報告があり、ML を廃止して Slack へ集約する方向性について決議した。

また、次の質疑応答が行われた。

- ・ フォームや Slack など窓口が複数あるのでよくわからない、という声は利用機関からは聞かないか
- 今の所大きな混乱は見られない。

6. 2025 年度活動報告・2026 年度活動計画について

資料 7-1、7-2、7-3 に基づき、高橋本部長から、運営委員会・総会に報告する資料についての説明があった。今後、Backlog で意見交換を行って資料を整えていくこととなった。

7. その他

なし。